令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05	社会教育費	07	文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―		目標値	―		
中事業	32	主要な取り組み	―							
小事業	04	文化の森事務		目標年度	令和6年度					

インプット

事業実施の背景にある課題	当施設を通じて、文化・芸術に親しみ学習をすることで、人生の拠り所となるよう施設の事業運営を実施する必要がある。
対　象	市内外を問わずどなたでも
目　的	文化の森の施設を活用したり、企画展などを鑑賞したり、仕事や読書、遊びなどで幅広い年齢層の方に利用してもらうことで、生涯を通して文化・芸術に親しむ人たちを育てる。
概　要	・みのかも文化の森における博物館や美術館及び学習施設としての管理・運営に伴う一般事務を行う。 ・より効果的な博物館の運営や文化振興事業を推進するため、施設の利用者や文化団体等の代表者で組織する文化の森運営協議会を開催したり、美濃加茂市民ミュージアム専門委員に専門的な指導や助言を受ける。

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	5,026	5,509	5,770	4,468	7,815
	決算額	4,174	4,720	5,101	4,175	7,621
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		2,015 / 936				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
広報媒体紹介件数	目標値	230	230	230	230	200
	実績値	202	150	151	140	188

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
入館者数	目標値	80,000	80,000	80,000	90,000	60,000
	実績値	33,380	53,310	58,471	61,152	65,247

実績

実　績	・ミュージアムニュースの発行（年４回） ・ホームページ、森の日記の公開 ・インスタグラム、すぐメールでの情報発信 ・新聞、雑誌、ラジオ等で事業のＰＲを実施
効　果	市内外を問わず、当施設の利用者に文化・芸術に親しむ幸福感を与える。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	各種広報媒体に積極的に企画展や活動を紹介しており、それが入館者数の増加にもつながっている。しかし、紹介する広報媒体の把握が困難なこともあり、紹介件数が目標に達していない。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	博学連携活動による受け入れ学校の増加や、各種広報媒体への紹介や、口コミにより入館者数が増加している。
実績からR07年度の事業の方向性	これまで同様に積極的な広報活動と博学連携活動により、当施設の存在意義の向上を目指す。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05	社会教育費	07	文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―		目標値	―		
中事業	32	主要な取り組み	―							
小事業	14	資料調査整理事業		目標年度	令和6年度					

インプット

事業実施の背景にある課題	地域から集まる歴史、自然、考古、美術、民俗資料について、その文化的価値を調査、研究し、適切に保存しながら後世に引き継いでいくことが地域博物館の役割である。そして、その研究成果、魅力を展覧会やホームページなどで公開、また刊行物として発行することで、市民に美濃加茂市の魅力を伝え、文化的関心を深め、地域への誇りと愛着を育むこと、また、地域内だけでなく、全国、全世界へ発信することで、美濃加茂市の知名度を上げていくことが必要。
対　象	美濃加茂市民ミュージアムの資料等（考古、歴史、民俗、自然史、美術、人物、書籍等）
目　的	美濃加茂市の文化的価値や魅力を持つ資料を展示やホームページなどで普及、発信することにより、青少年の教育や市民の関心・活用に役立てる。 市民の文化的関心を深めるとともに、全国の研究機関等で利用されることによって、美濃加茂市の知名度や評価が高まる。
概　要	・地域関連の資料を収集。 ・文化財、美術資料、地域の歴史・文化資料等の調査、記録。 ・収蔵資料の修復、燻蒸、写真デジタル化、レプリカ作成等による保存。 ・研究の成果をまとめた研究紀要、地域の歴史・文化を紹介する冊子等の刊行。 ・収集資料をデジタルアーカイブ化し、ＨＰ等で発信したり、展示したりする。

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	3,183	3,321	3,377	5,380	9,481
	決算額	2,776	2,973	2,987	4,858	9,455
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		1,010 / 3,360				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
美濃加茂事典入力数の合計	目標値	790	870	900	950	1,000
	実績値	793	848	921	1,022	1,043

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
資料閲覧貸出等の点数	目標値	200	200	200	200	200
	実績値	370	222	216	109	337

実績

実　績	・資料閲覧貸出点数　　337点 ・美濃加茂辞典ＨＰ掲載　入力21件　累計1151件 ・刊行物　紀要第24集　A4 116ｐ
効　果	地域に根差したミュージアムという基本的な考え方のもと、自然史、考古、歴史、民俗、美術工芸、文化などの広範囲な分野の資料や標本、作品、そしてそれに関する情報を収集し研究・保存することができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	この地域に関する情報を一つ一つ調査・研究・整理した結果として、「美濃加茂事典」への登録が1000件を超えることができたが、登録する情報が徐々に詳細な調査を要するものに変わってきていることや、各学芸員の業務過多により、調査に費やす時間が確保できていない現実もある。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	美濃加茂事典への新規登録数は少ない状況だが、コロナ禍を経て、他館との交流等も活発になり、資料借用・閲覧件数を大幅に伸ばすことができた。
実績からR07年度の事業の方向性	引き続き、「地域的な特徴・特性をあらわし価値があると認められるもの」、「学術的に価値があると認められるもの」、「現代の社会に発信・提起するミュージアムとして収集する必要があると認められるもの」の3点に重点を置き、資料の収集・調査を行っていきたい。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05	社会教育費	07	文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―		目標値	―		
中事業	32	主要な取り組み	―							
小事業	15	埋蔵文化財調査・整理事業		目標年度	令和6年度					

インプット

事業実施の背景にある課題	市内にある埋蔵文化財を把握し、遺跡の分布調査、出土品の整理、保存、復元を行うことで、地域の考古的文化財の調査、研究、保存に努め、後世に引き継ぐことが求められる。また、開発業者、公共事業担当部署との連絡、協議を円滑に行うことで、開発や工事等で埋蔵文化財が調査されずに滅失することを防ぐ必要がある。
対　象	埋蔵文化財（遺跡、出土品、記録等）
目　的	市内にある埋蔵文化財を把握し、分布調査、開発や工事等の協議、調整。出土品の整理、保存、復元を継続的に行う。その結果をデジタルデータ化をすることで開発や工事等に係る文化財保護を円滑に進める。 調査結果とともに一般公開したり、小中学校の学習に活用することで、市民が文化的関心を深め、地域に誇りを持つことができることをめざす。
概　要	・文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の展開 ・発掘された出土品の調査・整理・研究並びに遺物の修復復元作業。 ・遺物の保存・管理・台帳整理、並びに、デジタルアーカイブ化。

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,932	1,784	1,934	1,838	1,838
	決算額	1,750	1,528	1,303	1,625	1,832
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		770 / 0				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
埋蔵文化財包蔵地の分布調査件数	目標値	250	250	250	250	250
	実績値	385	217	477	392	386

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
台帳及びデジタルデータ登録数	目標値	350	1,000	700	700	700
	実績値	1,976	657	857	840	815

実績

実　績	・遺物整理、製図台帳、データ作成　815件 ・埋蔵文化財包蔵地発掘調査、協議　　386件 ・太田小6年生（2日）、加茂野小6年生（2日）、下米田小6年生（1日）、古井小6年生（2日）、山之上小6年生（1日）、双葉中1年生（2日）　について、 ・授業内容（A）社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」 ・授業内容（B）「総合学習」 にて、常設展示室や館蔵の市内で発掘された考古資料を活用した。
効　果	主に学校活用において、文化の森が立地している尾崎遺跡考古資料を中心に、それを見つけ出した人、作った人、使っていたひと、考え関わった人などを感じさせる、その状況に思いを馳せるような学びを提供することができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	開発事業者や公共事業担当部署へ、事業時の埋蔵文化財への対応方法について注意喚起することにより、未調査により滅失することを防ぐとともに、それが分布調査となっている。近年は、建築資材価格の高騰により、開発事業が減少しており、それに伴い分布調査件数も減少しいている。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	各担当者がコンスタントにアーカイブできている。
実績からR07年度の事業の方向性	埋蔵文化財の担当を学芸学習係から総務係に移行し、埋蔵文化財包蔵地の分布調査件数等の情報をデジタルデータ等として落とし込み、埋蔵文化財包蔵地等を事務職員間でも共有できる仕組みを構築していきたいと考える。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05	社会教育費	07	文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―		目標値	―		
中事業	32	主要な取り組み	―							
小事業	16	文化財保護管理事業		目標年度	令和6年度					

インプット

事業実施の背景にある課題	近年、価値観の多様化等により文化財への理解が希薄になり、また少子高齢化による地域の担い手不足の影響などにより、貴重な文化財、地域に根付いた文化資源の滅失・散逸などが課題となっている。
対　象	市内にある文化財
目　的	文化財の保護・保存・修復、公開（一般、ホームページ）、教育普及などの活用を通して、文化財に対する理解、継承する機運を育み、自分たちの住む地域にある文化財や文化資源を知ることで、地域に愛着を持ち、市民の誇りとなるまちづくりをすすめる。
概　要	・重要文化財の旧太田脇本陣林家住宅防災設備保守、保存修理。 ・重要文化財の旧太田脇本陣林家住宅隠居家の公開。 ・津田左右吉博士記念館の保守、活用。 ・美濃加茂市文化財保存活用地域計画作成業務。 ・その他文化財や民俗芸能等の保護・保存。

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	7,744	10,196	16,166	12,452	12,315
	決算額	6,698	8,745	14,146	12,057	11,263
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		1,070 / 180				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
文化財管理、保存、修理補助事業達成件数	目標値	5	5	5	5	5
	実績値	6	5	5	5	5

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
隠居家入場者数	目標値	5,500	7,000	7,000	7,000	7,000
	実績値	4,073	5,075	4,984	5,322	5,748

実績

実　績	・旧太田脇本陣林家住宅隠居家公開　5,748人 ・津田左右吉博士記念館利用者数　324人 ・文化財保護費補助金 旧太田宿脇本陣林家住宅（修理・管理）487千円 ・民俗芸能保存事業補助金　２団体　108千円
効　果	文化財の保護により、孫氏の代まで歴史を伝えるとともに、当市の歴史的価値や来訪者の増加が期待できる。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	文化財の保存や修理に対して、大学との連携や専門家への依頼をしながら計画的に取り組めている。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	コロナ禍以降、順調に入場者が増加しているが、目標を達成できていない。 近隣に魅力的な集客施設が少ないことも一因と想定される。
実績からR07年度の事業の方向性	R06年度に作成した文化財保存活用地域計画に基づき、文化財や民俗芸能等の管理と保護により地域と連携しながら、文化資源の充実度の向上を図る。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05	社会教育費	07	文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―		目標値	―		
中事業	32	主要な取り組み	―							
小事業	17	積み重ねていく大学との連携事業		目標年度	令和6年度					

インプット

事業実施の背景にある課題	文化の森に収集されている資料の整理、台帳化等について、その分野は多岐に渡るため、全てを館の学芸員のみで行うことはできない。そこで、大学の専門性を活用するなど、地域の大学と連携して進めることが必要となる。
対　象	美濃加茂市民ミュージアムに収集されている資料
目　的	文化の森に収集されている資料を各大学の知と経験を活用して体系的に整理、台帳化し蓄積を行い、その成果が一般市民の疑問解決や他機関による研究に利用されたり、講演会や講座などを開催したり、里山整備、地域づくりを進める基礎資料とされるなど、地域における学術活動に活かされることを目指す。
概　要	・大学と連携した古文書や自然分野関連資料の整理、蓄積、研究成果の発信 ・レプリカや標本作成。 ・自然史系等の講座の開催。

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,104	1,207	1,173	1,094	1,199
	決算額	827	708	891	1,094	1,193
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		120 / 180				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
資料整理件数	目標値	2,000	2,000	1,000	1,000	1,000
	実績値	1,090	923	2,066	1,956	1,353

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
大学連携で調査、整理した資料のデータベース化数	目標値	10	100	100	100	100
	実績値	140	162	108	140	94

実績

実　績	・岐阜大学（標本整理）　1,353点整理 館所蔵の植物標本の整理業務 ・愛知大学（古文書整理）　20件整理 本陣資料に関わる古文書訳や地域資料としての古文書整理業務 ※R6年度は個々の所蔵資料の整理ではなく、案件ごとにまとめて依頼をしているため、古文書整理については件数として報告
効　果	岐阜大学、愛知大学との連携により、整理をしきれていなかった収蔵資料について、順次台帳に登録していくことができたほか、博物館額を中心とした新たな大学との連携を見通すことができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	当館にて調査や整理が難しい資料について、大学との連携によりそれを実施しているが、連携を必要とする資料を目標以上準備することができた。なお、愛知大学との連携における古文書整理については、中山道に関連した企画展等の関連もあり、R6年度は資料整理を一式で依頼したため、点数としては活動指標の数字にカウントしていない。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	例年通り、コンスタントにデータベース化することができたが、R6年度は古文書資料を中心に整理を行ったため、権利等の関係で公開できる資料も限られており、目標とするKPI数値の達成には至らなかった。
実績からR07年度の事業の方向性	これまで連携を行ってきた大学はもちろん、昨年度より見通しを立てつつある、博物館学の分野において、連携大学を検討していきたい。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05 社会教育費 07 文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―	目標値	―
中事業	32	主要な取り組み	―				
小事業	18	人物顕彰事業		目標年度	令和6年度		

インプット

事業実施の背景にある課題	坪内逍遙、津田左右吉をはじめとした偉人、地域と関わる重要な人物の功績を顕彰し、後世に引き継いでいくことで、地域の魅力を高めることが必要である。
対　象	市民
目　的	人物顕彰に関わる質の高い文化事業（逍遙大賞、学生野外劇、講演会、ワークショップ等）などを実施することで、郷土の魅力を高め、文化芸術を身近なものとし、市民文化の向上を図る。地域の偉人について知ることで、自分たちの住むまちに愛着と誇りを持つことができる。
概　要	・人物顕彰事業 ・坪内逍遙大賞事業 ・早稲田大学と連携した文化交流事業 ・早稲田大学と連携した学生野外劇 ※令和6年度は、第20回坪内逍遙大賞の年であり、また、市制70周年記念の年でもあるため、関連事業（イベント開催、冊子制作、パネル展示など）を実施する。

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	8,321	5,063	7,755	6,687	12,067
	決算額	3,633	1,590	6,746	6,281	12,035
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）		1,560 / 540				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
「市の偉人」に関する事業数（イベント、広報、新聞、HP、SNSなどによるPR回数）	目標値					40
	実績値					42

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
市の偉人（坪内逍遙博士、津田左右吉博士）の認知度	目標値					80
	実績値					88

実績

実　績	・坪内逍遙大賞関連事業　770人 ・坪内逍遙関連事業　200人 ・その他の人物顕彰事業（津田作文集出品者、顕彰会活動等）700人
効　果	早稲田大学と美濃加茂市で所蔵する資料をもとに、早稲田大学本庄キャンパスのある本庄早稲田の杜ミュージアムと美濃加茂市を巡回する共催展の開催をはじめ、早稲田大学の学生による先鋭的な演劇公演や、逍遙の精神を受け継ぐような古典芸能の公演などを通して、多くの人たちに、地域の偉人についての学びの機会を提供することができた。また、逍遙大賞の開催年であったため、授賞式・記念事業を通じて多くの人に地域の偉人を認識してもらうことができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	隔年で実施している逍遙大賞の実施の年であったため、広報紙での特集をはじめ、年間を通して逍遙に関する事業は多く周知することができた反面、同じ市の偉人である津田左右吉については、関連事業もあまりなく、大きな露出はできなかった。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	主に人物検証事業への参加者を対象に認知度の調査を行っているため、必然的に認知度が高くなる傾向がある。そのため、今年度からは不特定を対象に実施する「市民満足度調査」の項目にて、認知度を測ることとしていきたい。
実績からR07年度の事業の方向性	令和7年度は第21回坪内逍遙大賞選考の年であるため、逍遙を軸とした人物顕彰事業に注力し、市の偉人としての逍遙の存在感を高めていきたい。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05	社会教育費	07	文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―		目標値	―		
中事業	32	主要な取り組み	―							
小事業	19	展示事業		目標年度	令和6年度					

インプット

事業実施の背景にある課題	博物館は、資料収集・保存、調査、展示を一体的に行う施設である。地域から集まった様々な資料を調査、研究して蓄積した成果を展覧会などで紹介し、資料の文化的価値や魅力を伝えていくなど、社会教育施設として学びの場を提供する役割を持つ。地域に関する資料は、そのままでは散逸したり、滅失されてしまう恐れがある。その文化的価値を調査、研究し、展示へと結びつけることで、その文化価値を市民に知ってもらい、地域の宝を次世代へと継承していくことが必要となる。
対　象	市民
目　的	様々な企画展、常設展示室等の展示を通して、美濃加茂市の文化的価値や魅力を発信し、市民が芸術文化に触れる機会や場を提供することで、市民文化の向上と新たな探求心が育まれることをめざす。
概　要	○資料収集・調査研究により蓄積された情報を展覧する事業 令和６年度の開催予定の企画展 ・石に刻む展 ・新収蔵記念本陣の品々展 ・現代美術展 ・市制７０周年記念展 ・蚕とまゆ展ほか ○常設展示室、地域・防災情報室とともに、多様な教育に資料展示を活用する

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	6,973	8,641	8,142	7,901	8,191
	決算額	5,710	6,558	6,283	6,945	8,188
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		1,210 / 2,820				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
年間企画展入場者数	目標値	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	実績値	4,308	11,905	7,521	8,169	8,497

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
展覧会の満足度	目標値	80	80	80	80	80
	実績値	84.42	84.6	83.6	80.63	82

実績

実　績	・石に刻む展　1,940人 ・本陣の品々展　1,878人 ・70th収蔵資料展　937人（延長分：約800人） ・未来に繋ぐみのかもの70年展　1,774人 ・芸術と自然展　1,168人
効　果	館が収蔵する膨大な資料等を各企画展等を通じて紹介することで、来場者がこの地のよさや奥深さを考え、まちの再認識や誇りにつながっていく機会の提供ができたと考える。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	各種広報媒体への企画展の紹介やリピーターにより目標を達成することができたほか、市長のYouTubeチャンネルへの出演やケーブルテレビを活用した広報など、新たな取り組みを実施したことが達成の要因と考える。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	地域の総合博物館として、地域に特化した内容が中心の企画展であることから、近隣の来場者が多く、満足度が高くなっていると考えられる。
実績からR07年度の事業の方向性	館で展示・紹介されている資料は、収蔵資料の一部ではあるが、より身近なこととして伝わるよう工夫し、来場者がこの地のよさや奥深さを考え、まちの再認識や誇りにつながっていく展示を目指していく。 また、展示内容をデジタル上でアーカイブする仕組みについても検討していきたい。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04600000	市民協働部 文化振興課

大事業	61	６つのまちづくり宣言	―	款項目	09	教育費	05	社会教育費	07	文化の森費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	ＫＰＩ	―		目標値	―		
中事業	32	主要な取り組み	―							
小事業	21	市美術展事業		目標年度	令和6年度					

インプット

事業実施の背景にある課題	市民文化向上の一つとして、日ごろの文化活動の成果を発表する機会を提供することが求められている。 現代は、インターネットのＳＮＳ発達により、市民にとって、実物の作品を発表し、実物を観て、交流する機会は、減りつつある。日ごろの文化活動を発表する機会を提供することで、人とモノ、人と人の交流の場を創設することが大切となる。
対　象	一般市民（応募対象者は、高校生以上）
目　的	美術展を通して、日ごろの文化活動の成果を発表する機会を設けることにより、その発表の場を目標として市民が自己研鑽につとめ、文化活動を身近に感じ、市民文化の向上と新たな探求心が育まれることを目指す。
概　要	・公募展の美濃加茂市美術展の開催 ・募集内容：日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真の５部門 ・作品の展示及び入選作品の表彰

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,060	1,013	1,003	1,004	1,154
	決算額	950	919	942	952	1,146
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		410 / 350				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
出品点数	目標値	210	210	210	210	210
	実績値	251	216	229	226	221

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
新規出品者数の割合	目標値	10	10	10	10	10
	実績値	16.29	12	14	11	13.6

実績

実　績	・出品点数 日本画15点、洋画75点、彫刻・彫塑・工芸33点、書28点、写真70点　合計221点 ・出品者数　221人　うち初出品者数　30人 ・入場者　564人
効　果	若い世代の発表となる事を目指し、一昨年度から10代の方の出品料を無料とした結果、10代の出品が大幅に増加した。また、2点出品をやめた結果、出品手数は減ったが、出品者はむしろ増加し、非常に幅広い世代の方々が芸術文化に親しまれている事業となっている。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	市内外から200人を超える出品があり、非常に質の高い、豊かで力あふれる作品が並ぶため、自身のスキルアップの場とされている人たちが多くいることが、出品点数にも反映されてきていると感じている。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	10代の出品が大幅に増加したことから、若い世代を中心に新規出品者が増えたと感じている。引き続き、若い世代へのアプローチは続けていきたい。
実績からR07年度の事業の方向性	引き続き、市美術展が芸術文化を通じた市民の交流の機会となり、日々の生活を潤すものであり続けることを目指し、若い世代はもちろん、生涯学習の発表の場としても認識してもらえるような事業運営を行っていきたい。